

百歳おめでとうございます



デイサービスが楽しみ

4月1日に藤原一さん(鹿島区寺内)の賀寿及び記念の木杯の贈呈式が自宅で行われました。

藤原さんに長寿の秘けつを尋ねると「毎朝コップ一杯の水を飲み、梅干しを食べること」だそうです。

藤原さん、これからもお元気で。



だれかのために 身近なボランティア



3月27日、原町区の旭公園で「春の街頭献血キャンペーン」が行われました。会場には、2台のバスが準備され、血液不足を補おうと大勢の市民が献血に協力しました。

うさんへの手紙

南相馬市長 渡辺一成

いよいよ4月に入りました。

この手紙が届くころには、桜は満開を過ぎているかもしれません。

南相馬市も合併して4年目に当たる平成21年度の業務が開始され、私は4月1日に課長相当職以上の幹部職員と12人の新採用職員に辞令を交付しました。また、前日には40人の退職する職員を見送ったところでした。

合併によって職員数は定員適正化計画以上に削減され、21年度の総人件費の予算は前年対比で1億8千万円ほど減少しています。

新規採用職員の皆さんは、正に難関を突破されての採用です。全体の奉仕者として市民の皆さんの期待にこたえられるよう、成長してほしいことを申し上げました。

ところで、子どもにとっても大人にとっても、成長する意欲や学ぶ意欲、挑戦する意欲はどこから生まれるのでしょうか。京都府伏見工業高校ラグビー部を何度も全国優勝へ導いた山口監督がある本の中で「感動することほど人を動かすものはない。」と言っています。教室にも職場にも地域や家庭にも感動することがあれば、必ず人は動くというのです。ボロボロに負け続けるラグビー部を全国制覇に導いた姿は、テレビでも放映され、正に人はパンのみにて生きるにあらずだと思いました。

感動から新たな意欲を沸き立たせられるのは、生物の世界の中では人間だけでしょう。だとすれば、感動する感性を磨き続けることが人間らしく生きる根幹を成しているのです。

春らんまん、生命の息吹を感じながら、新しい世界に飛び立ってほしいと願わずにはいられません。

お孫さんによろしく。

それでは又。

(4月6日記)